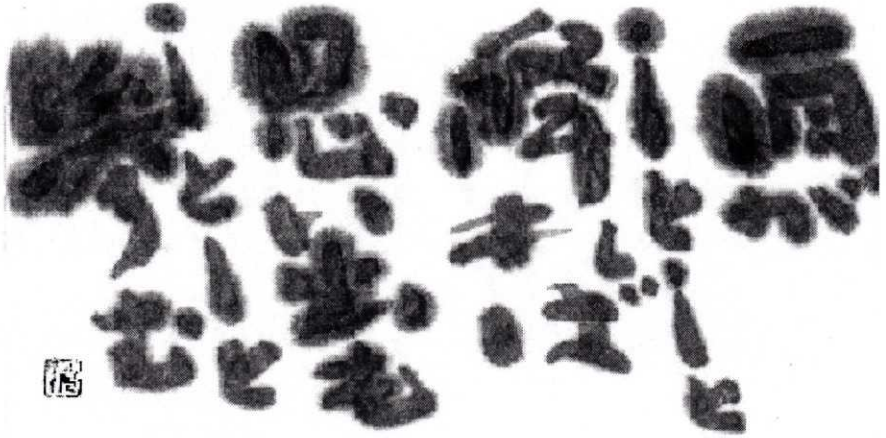




# う 羽 化 か

1999年6月  
第14号

横 浜 漢 点 字 羽 化 の 会  
〒231-0851 横浜市中区山元町2-105 Tel 045-641-1290  
発行責任者 代 表 岡 田 健 嗣  
編集責任者 宗 助 悦 子



## 目 次

「漢点字の公認運動」に掛ける私の決意 (野島 静)	1
漢点字の周辺 (岡田 健嗣)	2
盲教育と漢点字 (小池上 惇)	5
連載「点字から識字までの距離」(13) (山内 薫)	7
文明の利器でも、読み書きの満足は得られない (佐々木 実)	9
教室から 二年一組のこのごろ (伊藤 邦博)	14
イラスト版「漢点字ってどんな字？」(13)	17
「羽化の会」ライブラリー作りについて	23
点字の宛名について	26

## 「漢点字の公認運動」に掛ける私の決意

鳥取県 野島 静

私は今年の正月に子供達から『おとうさん、今年は古稀の祝いをせんらんね』といわれて、ふと残る余生に思いを巡らせた。その際、学生時代に読んだ本の一節（それは内村鑑三の書であつたように思う）が頭に浮かんた。

「ひとと生まれたからには、この世に何か一つ残すべし」として、およそ、次の事柄があげられていた。

「財産（金）・仕事（業績）・良い行い・良い言葉・美しい心」

さて、私は七十年を生きてきて、この世に何が残せたのだろうかと考えた時、なにかしら空しさが込み上げてくる。

しかし、問題は残された余生をいかに過ごすかである。一人ではできなくても大勢の人の力を合わせれば、この世に残すべき何かができるのではないかという考えに到達した。そこで思いついたのが漢点字のことであった。思えば今年、川上泰一先生が漢点字を考案し「日本盲教育研究会」の場で公にされてから30年になる。この間、漢点字の学習者は確実に増加し、全国的な広がりを見せている。

今や、漢点字は十分実用に耐え、視覚障害者にとつてなくてはならない物になつてゐるにもかかわらず、盲教育関係者は、これを児童生徒の教育手段として取り入れようとしめない。それは、一方に長谷川貞夫氏考案の6点漢字がある故の対立に巻き込まれたくないという、言つてみれば、教育会独特の「中立の態度」かもしれないが、漢点字を学んで日本文化の真髄に触れた喜びを味つた者の目から見ると、あまりにも怠慢に過ぎると思えてならない。

漢点字を学んだ感激を書きはじめるときりがなが、漢点字の国語辞典を引いて大いに感動したことを一つ紹介しよう。これは「じんかいせんじゅつ」について引いた時である。これをかな点字の国語辞典でひくと「オオクノヒトヲオシミナクツカウセンジュツ」とある。これで意味は判るとしても、じんかいの「かい」にどんな字が当ててあるかは判りようがない。私は「かい」は「かたまりのかい（塊）」かと思つていた。漢点字の国語辞典を開いて見るとそれが「海」であることが判つた。この字だけで後の説明はいらぬ。字を見ただけで、じんかいせんじゅつは「大勢のひとが押しよせる戦術だ」ということが心から納得できた。

このような感動を後輩達に伝えるために「盲教育に漢点字の導入を薦める運動」を興したいと考えた。その考えを徳島の米原清司先生が発行されている

「声の漢点字情報」の新年号に載せたところ、予想を超える多数の力強い支持の声がよせられた。それによりを得て、声漢の聴読者に具体案を示して強力をお願いする運びとなった。

その内容はおよそ次のようなことである。

その1 文部省はじめ、関係当局に提出する陳情書の署名活動を興す。

その2 陳情書に添えて提出する資料を整える。

資料1 全国の盲学校並びに、点字図書館における漢点字書の保有状況調査。

資料2 現在各地で販売され、購入可能な図書目録の収集。

資料3 全国各地の「漢点字の点訳ボランティア」の概数調査。

資料4 文集の編集（漢点字学習者の「新しい漢字を発見した喜び」や「直接漢字の文学書や、学術書を読むことができる幸せ」を綴った感動の書）

以上どれ一つとっても一人でできる仕事ではない。できるだけ大勢の方の協力を頂いて、「漢点字の公認」を実現させたい。

（編集部注） 声漢：「声の漢点字情報」の略。

漢点字に関する月刊テーパー情報誌。

## 漢点字の周辺

代表 岡田 健嗣

本号では、本会の読者である鳥取県の野島静先生と、栃木県の小池上惇先生から、原稿を頂戴しました。深く御礼申し上げます。お二方ともに、点字の漢字体系として漢点字の構成は最も優れたものであることを確認されながらも、その普及の遅々たることへの愁いと、将来への方向性の摸索を表わされたものと読ませていただきました。

また、岩手県の佐々木実さまの筆になります『文明の利器でも、読み書きの満足は得られない』を、高橋実監修、株式会社一橋出版刊「見えないってどんなこと」から転載させていただきました。お三方には、深く御礼申し上げます。ここでは、視覚障害者が読むことを通して得なければならぬ知識や情報から、如何に隔てられているか、漢点字を習得し、それを使用することで、その障壁を如何に低くし得るかを述べておられます。

本会の活動が始まって三年半が過ぎようとしております。確かに漢点字が目覚ましく普及したとは申せませんし、公的な機関が視覚障害者を対象に漢字のサ-



ピスを一般化したということもありません。しかし、本会の活動拠点の横浜では、市立中央図書館で漢点字の資料を蔵書として受け入れていただいておりますし、神奈川県ライトセンターでも、プライベート・サーピスとして漢点字のニーズを受け入れていただいております。また、横浜市協では、本会の拠点をご提供いただいで、活動の充実がはかられております。同様に、東京における漢点字の運動の発祥地である墨田区立緑図書館でも、引き続きニーズを受け入れ、漢点字の普及をご支援下さっております。

このように、本会の周辺では漢点字のニーズに対応する態勢が整いつつあり、その普及を待ち受けております。同様に、各地から届く情報でも、ボランティアの皆さまのご理解が進み、漢点字訳の活動が高まりつつあります。このことは近く野島先生がそのあらましをおまとめ下さいますのでそちらに譲りますが、静かに動き始めているものを感じます。

以上、視覚障害者の文字の状況は、徐々に一般に知られるようになって参りました。しかし、残念ながら視覚障害者自身が漢点字を習得して日常的に使いこなそうとする動きに結び付いておりません。その理由を考えてみましょう。

現在漢点字に対してはつきり否定される議論は起こっておりません。勢い肯定的な議論も充分とは申せません。したがって、未だ漢点字の長所や短所が明確にされずにあります。そこで視覚障害者の中で漢点字に否定的な見解を持つ人たちが、漢点字を取り上げる時の評価を、私なりに拾って俎上に載せてみたいと思います。

(イ)漢点字は構成が論理的でなく、複雑難解である。漢点字は漢字の部首を点の符号に当てて作られています。したがって部首の数だけ点字の符号があります。例えば象形文字の「糸、田、人」、会意文字の「言、可、皆」、指事文字の「上、天、乃」などの文字を点字符号に当てて、その符号を形声文字の部首として用います。勿論その部首は、形声文字の音符号や意味符号の働きを果たしますので、漢字の特徴である「形・音・義」を表わす符号となります。このような文字や部首は覚えなければなりません。それは晴眼者が漢字を覚えるのと同じです。部首の数が多く、複雑な構成の漢字は、漢点字も複雑な構成になります。

本会では漢点字を学習するのに、いわゆる書取ドリル方式で暗記するのではなく、漢字の組立を理解しながら習得できる方法を志向しております。毎号本誌にご寄稿いただいております小学校教諭の伊藤邦博先生

からご教授いただいて、漢字の構造と漢点字との関係を理解することで、漢字を興味を持って学習できる方法を、研究し実践を目指しております。

(口) 漢点字は8点のため、読み難く書き難い。

漢点字は、仮名点字と区別できるよう、8点を採用しました。日本語の通常の表記法である漢字仮名交じり文を表現するには、漢字と仮名を即座に判別できなければなりません。しかも、従来の点字では前置符号を多用しており、それで区別することは困難です。そこで漢点字では、漢字符号として従来の6点の点の上りに2つの点を付けて表わすことにしました。漢字の始まりの点と終わりの点です。ちょうど括弧に括る形です。

このようにして書かれた漢点字の文を読むのは、確かに慣れるまでは違和感があるかもしれませんが、しかし、漢点字を勉強しながら読みに慣れて行けば、決して難しいものではありません。仮名点字を読むのとはそのテクニクに相違はありますが、むしろ理解が行くようになります。

書く道具は充分そろっています。手書き用には点字板、懐中定規がありますし、またタイプライターではテラタイプ、マウントボタン・ブレイラーがあります。

一般に視覚障害者が書いた点字はきたないと言われるます。漢点字は書き難いと言われるのはその辺りに理由がありそうです。点訳者が一点一点打つように、静かに落ちついて書くようにすれば、決して書き難いものではありません。墨字でも漢字を書く時、丁寧に落ちついて書くよう、皆さん注意を払っておられます。漢点字も同様心を込めてしっかりと打つようにしたいものです。

(ハ) 漢点字は例外が多く、習得に困難である。

点字は漢点字も例外でなく、6つの点が単位となっており、漢点字は部首を点字符号化したものですので、その組み合わせには数の限界があります。そこでどうしても点字符号を使い回しすることになります。そのことは確かに習得を困難にするものでしょう。しかし、墨字の漢字の組立を並行して学習することで、手掛かりを見失うことなしに習得し得ることを確信します。

漢点字を習得し読み書きすることは、視覚障害者のバリア・フリーの大きな一歩です。漢点字を通して、漢字の持つ歴史的な情報を享受し、新たに表現し発信することができれば、世界は大きく広がることでしょう。



# 盲教育と漢点字

栃木県 小池上 惇

最近、漢点字使用者の間から、「漢点字を正式な文字として認めて欲しい」という要求が高まりつつある。もちろん、〈視覚障害者も漢字による教育を受けるべきである〉とか〈日本語を理解するためには漢字は絶対に必要なものである〉という考えは正しいと思う。しかし、現在の盲学校の置かれている状況を考えると、盲教育に漢点字を取り入れるには多くの問題がある。

## 1 盲学校の現状

ここ10年ほどの間に盲学校では、重度重複の障害を持つ児童・生徒が増加しつつあり、また一方では、医療科において中途失明者の入学生が増え、生徒の高齢化が進んでいる。そして、普通文字はもちろん点字の読み書きさえ不自由な生徒が見られるようになった。こうした生徒の学習は、教科書を吹き込んだテープを聴いたり、授業中の教師の講義を録音し、後からそれを聴いたりして行っている。国家試験受験のためには、最低限点字を書くことと自分の書いた点字を確認することが必要ではあるが、それさえままならない生徒も

おり、今後、生徒の障害の重度重複化、高齢化が進むと、その傾向は更に進行するものと思われる。そんな状況の中で、果たして漢点字のような複雑な構成で読みづらい点字が習得できるだろうか。

## 2 点字離れの傾向

最近の厚生省の調査によると、視覚障害者のうち点字を使用することができる者は、視覚障害者の1割にも満たない状況であるという。今のサイズの点字では読みにくいので、もっとサイズの大きい点字を検討しているグループもあると聞く。若い頃から点字を読んでいる者にとつては漢点字もさほど読みにくくはないと思われるが、中高年の中途失明者には、原則として二マスで構成される漢点字はかなり読みづらく、特に点の数の多いものはその判別が困難だと思われる。

## 3 視覚障害者の漢字に対する理解の不足

漢点字が考案されて数年後わが国にも漢字が使えるコンピュータが登場し、視覚障害者も漢点字を使用して漢字仮名交じり文が書けるようになった。そのころは、漢点字または六点漢字を知らなければ普通文字を書くことができなかつた。そのため、視覚障害者の中には普通文字を書く手段として点字の漢字を学ぶ者も

## 点字から識字までの距離（一三）

山内 薫（墨田区立緑図書館）

『点字毎日』墨字版、五月六日号の論壇に、東京都に住む専門学校講師の田中邦夫氏が、「点訳や出版に要望」という一文を寄せている。内容は、点字なるが故のバリア（障壁）を三点挙げ、一考を求めたものである。第一点は「表紙にタイトルを」として、ほとんどの点字出版物が表紙に墨字の記載があるにもかかわらず点字が表記されていないので、表紙を一枚めくらなければ書名も分冊数も確認できないというもの。第二点は「原本との照合性」について、点字書に原本ページが添えられていればどんなに能率のかと述べ、てんやぐ広場のある本では、単にページを併記するだけでなく、文中の次ページに移る文字の部分にページ数の表記が入っていて、ボランティアの研究熱心さと質の高さに頭が下がるといふもの。第三点は「漢字の説明」についてで、「私は漢点字で読書するようになって表音文字の限界を痛感した」と述べている。

この小文を読んで即座に思い起こされたのは、十年ほど前に利用者からリクエストを受けて、日本点字図書館から相互貸借で借りた、椎名麟三の点字図書のことだった。その点字図書を出して幾らも経たない

ちに、利用者から電話があった。それは「この作品の中に空の色がトーコーシヨクにかわった。という文章が出てくるのだが、トーコーシヨクとはどんな色なのか」という質問だった。早速机の脇に置いてある『広辞苑』で「とうこうしょく」を引いてみると、「桃紅色」（桃の実のように薄い赤色）という項目が出てきたので電話口で読み上げたが、念のために出版されて間もない『大辞林』を引いたところ、そちらには「橙黄色」という項目があり「橙の実のような赤みを帯びた黄色」と記述されていた。仕方なく小学館の『色の手帖』を調べてみると、「とうこうしょく」には、同音で「桃紅色」「橙黄色」の二つの色が載っていた。こうなると原本を調べるより手はなく、幸いあずま図書館に椎名麟三作品集があったので、その箇所が点字図書のおおよそどの辺かということ聞いた上で、該当部分をようやく探し当てたところ、そこには「橙黄色」といふ漢字が当てられていた。

もし『広辞苑』を引いただけで回答していたら、誤った解答を利用者に告げたことになるところだった。この場合、本来なら同音異義語に関する点訳者注が必要であったにもかかわらず、点訳書には注がなく、日本点字図書館には恐らく原本は存在しないので、このことについて所蔵館に問い合わせても回答は得られなかっただろう。先ほどの田中氏は二点目の原本ページ



増えてきた。しかし、その後、コンピュータの進化とともに日本語の仮名漢字変換辞書も優れたものが開発され、変換効率も増してきた。視覚障害者の間には、

「漢字を知らなくても漢字仮名交じり文が書ける」という考え方が広まり、視覚障害者で漢点字を学ぼうという意欲を持つ者は急速に減少していった。

中途失明者は漢字の知識は持っているが漢点字は読みにくい。先天的な視覚障害者は漢字の必要性をあまり感じない。点字の漢字の普及が進まないのは、この二つの理由によるのではないか。

漢点字の情報誌などで中学生用の漢字書取問題などを見ると、漢字の使い方の難しさがよく分かるとともに、自分の漢字能力もある程度知ることができるが、日常生活や学習ではあまり漢字を意識しないで済んでしまう。多くの視覚障害者が漢点字の必要性を意識しない限り漢点字普及の運動は盛り上がりがないのではないか。

#### 4 漢点字自体の問題点

漢点字は読みやすいが書きにくいとよくいわれる。

1の点と4の点の上につける「始点」と「終点」は煩わしいし、書くのに時間もかかる。こうした煩雑さがマイナスに作用し、漢点字が日常使用する文字に加わ

ったとき、なお一層の点字離れを加速させるのではないか。

#### 5 今後の課題

それでは、視覚障害者が漢字に対する興味を持ち、その知識を具体的に使えるようにするにはどうしたらよいのだろうか。

① 先天盲の児童・生徒に対しては低学年から徹底的に漢字の使い方の指導をすること。その手段としては漢点字にこだわらず六点漢字でも、音訓でもよいと思う。

② 広く世の中に点字の漢字があることをPRする。そのためには、漢点字の使用者がそれを使用することによるメリットを訴え、それを生かした活動をする必要がある。

いずれにしても、一般社会と同様視覚障害者の社会も多様化している。漢点字のすばらしさは認めるとしても、他のもの、例えば六点漢字やかな点字の価値を否定したのでは漢点字使用者は孤立し、漢点字の普及はかえって抑制されてしまう。

六点漢字やかな点字の存在を認めただで、地道に活動を行っていくことが今後の漢点字発展の近道ではないかと思う。



数の記載について、「エッセーや小説ならいざ知らず、参考書や専門書ともなれば点字書だけでは分からない部分が出てくる」と述べているが、エッセーや小説でもこうした問題は頻繁に起こり得る訳で、即座に原本を確認するための原本ページの併記はあらゆる点字図書に必要であろう。これは余談になるけれども、「点字図書にしる録音図書にしる原本がなく、音声表記に変換された資料だけを所蔵していたのでは図書館とは言えない。従って点字図書館は図書館ではない」というのが私の昔からの持論で、そのことを何度も口にしてきたので、最近では点字図書や録音図書と一緒に原本を保管している点字図書館も増えてきた。

さて第一点目の表紙に点字の記載がないという点については、墨田区をはじめ私が触れている点字図書には必ず表紙に点字の記載があるので、何とも言えないが、むしろ単に作品名と全冊数・分冊数が記載されていればよいということではないように思う。例えば多くの一般書には帯というものがあり、その本の内容を的確に表現していたり、興味をそそることが書いてある。帯や本の外見も本を構成する重要なファクターであって、例えば点字図書にもこうした帯が付いていたら楽しいのではないかと考えてしまう。他にも村上春樹のベストセラー小説『ノルウエーの森』は、上巻が緑色、下巻が赤のカバーになっていたが、この配色は

出版界の常識を逆手に取ったもので、最も忌避される取り合わせをあえて使ったものだ。また、大ベストセラー『窓際のトットちゃん』は、本文活字にナール体という新しい書体を使ったことが一つの大きな特徴であり、九割九分の本が明朝体を本文活字に使用している出版界の常識に反してゴシック体に近いナール体を使ったことは、この本の大きな特徴であった。点字による触読者にそんなことが必要なかという意見も当然あるだろうが、本は書かれている中身だけが本なのではなく、様々な要素が一つになって構成されているものなのだから、例えば岩波文庫の巻末にある「読書子に寄す」や、関連した岩波文庫の紹介やPRを点字書の制作者が勝手に省略してよい訳がないのではなからうか。(だからといって『ノルウエーの森』の表紙の色は出版界の常識を破ったものだというような評価を下すことも禁物で、一般の本と違った特徴があればそのことだけを注釈するというのが正しい姿勢だろう)

さて三点目の漢字の説明については言わずもがなだが、「点毎に『カケハシタケシ(梯剛之)』と書かれていてもついにあの字は想像できなかつた。いずれにしてもこれくらいのこととは他人をあてにせずともできなければ……。」と田中氏は結んでいる。

以下の文は、1998年4月10日発行、株式会社一橋出版刊、「見えないってどんなこと」に収められているものです。著作権者のご厚意によって、本誌に載録させていただきました。著者の佐々木実様、監修者の高橋実様、並びに発行者の一橋出版様には、深く御礼申し上げます。

なお、本誌からの転載は、固くお断り申し上げます。

## 文明の利器でも、読み書きの満足は得られない

佐々木実ささきみのる

一九五七年、岩手県生まれ。岩手県在住。小学三年のとき、野球のボールが目にあたったことがきっかけで視力が低下し、五年生から盲学校転入。間もなく失明。

一九七八年、鍼、灸、マッサージの免許を取り、盲学校卒業。その後二年半の病院勤務を経て、鍼、灸、マッサージの治療院開業、現在に至る。両親との三人暮らし。

## 夢をかなえる機械

夕食をすませると、私は仕事部屋と書斎とを兼ねた治療室のパソコンに向かいます。昼に仕事の合間をみて書き上げた創作童話の点字原稿を、視覚障害者用のワープロを使つて、墨字（点字に対して活字のことを、私たちはこう呼んでいます）に訳していくためです。

私たち視覚障害者（とりわけ全盲の人たち）が扱うワープロというのは、パソコンに音声合成装置といつて、ディスプレイに表示された文字を音声で読み上げてくれる機械をつないだものをワープロソフトで動かしていくものです。私たちは音声を頼りに、キーボードをたたいて、墨字を書いていくのです。

このワープロは、すばらしい文明の利器のひとつで、長い間墨字を独力で書きたいと願ってきた私たちの思いを、一気にかなえてくれた機械なのです。

これさえあれば、点字が読めない一般の人たちにも、手紙や文書で、自由に自分の思いを伝えることができます。初めてプリンターから墨字をうち出したとき、私は嬉しさと感動で目頭が熱くなりました。

パソコンの右下にある四角いボタンをそつとおしこ

むと、カリカリカリとパソコンが立ち上がるとき特有の音がして、夢をかなえる機械は起動を開始しました。

### ワープロをマスターするまで

私がワープロをマスターしたのは、今から十年くらい前になります。

私たちが独力で墨字を書くことについては、何十年前から工夫や研究がなされてきました。そしてまず登場したのが、仮名文字のタイプライターでした。これはキーの配列さえ指で覚えてしまえば、片仮名ながら墨字を書き出せるというものでした。

当時学生だった私は、すぐにそれに飛びつき、操作できるようにすると葉書や封筒のあて名書きはもちろんだれにも代筆の頼めないラブレターをタイプピングしたものでした。「タイプスト」という職業が、とてもハイカラでまぶしく感じられた昭和四十年代のことでした。

でも、仮名タイプで書いたものは、私たちには読み返しができず、それにあるとき、こんなつぶやきが……「手紙をもらうのは嬉しいけれど、片仮名だけの文というのは読みにくいわね」

そうなのです。日本語の文章というのは、漢字が混じってこそ意味をなすのです。それが墨字の特徴なのです。

でも、落胆した私を、間もなく驚かす機械が登場しました。先に紹介した視覚障害者用のワープロです。ただ、このワープロを自由に使えるようになるには、たいへんな努力が必要だったのです。

というのは、私たちが使っている点字には、漢字がありませんでした。ですから中途失明者を除けば、ほとんどの人が漢字の知識がありませんままに、学校をおえてきているのです。機械が漢字に変換してくれるとはいえず、その漢字を選んでリターンキーをおすのは人間ですから、漢字の知識のまったくない人には、ワープロは使えないのです。

そこで、点字でも漢字を作ろうという試みがなされ、点字の升目をふたつもみつつも組み合わせで、点字の漢字が作り出されました。しかもふた種類も。ひとつは川上泰一先生の考え出された「漢点字」。もうひとつは、長谷川貞夫先生の「六点漢字」。私は川上先生との通信教育の中で、漢点字の学習を開始しました。小学五年から点字を使つての学習に移行した私にとって、漢字の世界は興味と驚きに満ちていました。

「音を楽しむ」と書いて「音楽」、  
「数を学ぶ」の



が「数学」。漢字にはひとつひとつに意味があるので  
す。「文明の利器」の「りき」を「力」だと思いきん  
でいた私などには、想像もつかない深い世界です。

私はたちまち漢字のとりこになりました。寝ても覚  
めても、頭の中は漢字のことばかり。そしてその知識  
を身につけることこそが、独力で漢字仮名混じりの墨  
字が書けるという夢に、直結していくのです。

布団に入るのが夜の一時・二時となり、やがて気が  
ついたら、私は一年あまりかかるといわれる常用漢字  
テキストを、五か月ほどで終えていました。

### 読むことについて

書くことと並んで、私たちの頭を悩ませているのが、  
墨字を読むということ。そしてこつちの方が、私たち  
にとつては手も足も出ないことなのです。雑誌、新聞、  
広告、広報などなど、毎日洪水のように出される活字  
の情報を、自由に読めないということは、まったく残  
念なことです。

ここで私たちの読書環境についてお話ししましょう。  
私たちは点字図書館とか、ライトセンター、一部の  
図書館の視覚障害者コーナーから、点字本や音声訳

(朗読)テープを借りて読書しています。この施設は、  
各都道府県に最低ひとつはありますが、ここでは点訳  
や音声訳のボランティアを募り、その人たちの力が、  
蔵書に大きな役割を果たしています。最近では点訳がパ  
ソコンを使って行われるようになり、また全国の図書  
館が一本のラインでつながり、同じ本を重複して点訳  
や音声訳しないような配慮もなされています。

でも、読みたいものがすぐ手元に届くわけではあり  
ません。点訳よりは早い音声訳でも、ベストセラーな  
どはブームが下火になったころ完成し、届いたときに  
はブームが去っているというのが実体です。希望者が  
多いと、なかなか順番が回ってこないのです。それに  
おびただしく出版される活字本に、点訳も音声訳も追  
いつかないのは当然のことです、新聞や週刊誌などに  
ついては、ほとんど対応しきれていないのです。

さらに難問なのは、プライベートな文章をどうする  
かということです。電話や電気料金、預金通帳の額な  
どは、点字でしらせてくれるサービスがありますが、  
それ以外、毎日のように送られてくるダイレクトメー  
ルや役所からのおしらせ。これには本当に困ってしま  
います。それらに対しては、対面朗読やファックスで  
送って読んでもらうという方法がありますが、まだま  
だ十分ではありません。

ところが、この読みの世界にも、文明の利器が希望を与えてくれたのです。手書きや崩し文字でなければ、パソコンのOCR機能を利用した文字読み取りのソフトが開発されたのです。スキヤナの上に紙をおくと、機械が認識し、音声で読み上げてくれるのです。

ワープロと文字読み取り機、これらは読み書きの自由という私たちの長年の夢を、かなえてくれたかにもえました。

### 立ちはだかる壁

ワープロをマスターした私は、得意の絶頂にいました。封筒のあて名書きからイベントのプログラム作り、そして創作童話を墨字訳して懸賞に応募したり…。

そんなおり、私の墨字訳したものを読んでいたあるボランティアの人が、

「この童話、何かの懸賞に応募されるんですか？それだったら少し、漢字の使い方直した方が良いところがあります」

学生時代に出版社で校正のアルバイトをしたことがあるというその人は、私の「遠慮なく指摘してください」という言葉に、

「『指導者の元』の『もと』は、『元』ではなく『上下』の『下』を使ってください。ここの『おさめる』は、『収』より『納』の方がいいです」などなど…。

漢字には同音、同訓語があつて、それをうまく使い分けるには、しっかりとした漢字の知識が必要なのです。にわか勉強の私には、それがありません。

それから毎日、私は漢点訳された本を読むことにしました。漢字の知識を高めるには、漢点訳された本を一冊でも多く読むしかありません。でも限界もあるのです。

「童話ですから、あまり画数の多い難しい字は、使わない方がいいと思います。『襲う』は画数が多いです。それと『お腹』という字ですが、ここでは平仮名書きの方が、内容に合っているように思えますけど。そのへんは、作者の考えや思いしだいです」

こうなつてくるともう、私の実力範囲をはるかに越える問題です。私は頭をかかえてしまいました。そんな私に、さらに追い討ちが…。

ある年輩の視覚障害者が、

「おれたちのような年になると、横文字や機械じじりは苦手だし、それにワープロたつて何十万もするんだよな。視覚障害者みんなが、墨字を書けると思わ

れても困るよな」

たしかにそうなのです。視覚障害者用のワープロは高額ですし、操作も簡単ではありません。ワープロを使える人は、まだまだ一握りの人たちなのです。

一握りといえば、先に紹介した文字読み取り装置を持つている人もそうです。高額なうえに、誤読や認識できないものがあるようです。

私たちが社会で自立していくうえでかせがない読みの書きの自由は、今のところ文明の利器をもつても、渴きを完全にいやすまでには、至っていないのです。

### これからの道

現実を目の前にした私は、少し考えの方向を変えることにしました。つまり、何でもひとりで行けるようになろうとか、完璧にやってみようというこり固まった考えをやめたのです。

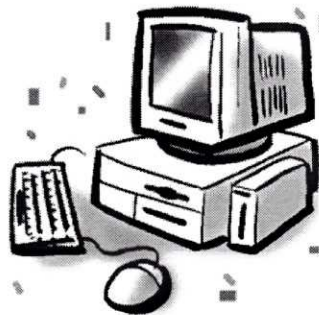
考えてみれば、私たちは「情報の窓」とまでいわれる目を失っているのです。そのために負わなければならぬハンディキャップは、想像以上のものがあつて当然なのです。そのハンディを、独力でカバーしようとか、乗り越えようとする、どうしても今の段階で

は無理を生じます。

もちろんそのための努力も必要ですが、それと同じくらい、人の手をうまく借りて、失ったものを補っていくということも、大切なことなのです。そこに人間としての心の触れ合いや相互理解が生まれ、ぬくもりが通い合うのです。ひとりでやろうとするから苦しいのです。

私たちにとって、科学が進み、目の代りをする読書機や、高性能のワープロが開発されることは、究極の願いです。ロケットが火星を目指し、海にトンネルや橋がかけられる時代です。国がもつ目の代りをなす機械研究や、それを購入する個人に援助してくれば、私たちの読みの書きの環境は一段と向上するはずなのです。

ただ、いくら科学が発達しても、私たちはまったく人の手を借りずに、生きていくということは難しいでしょう。「自立」とは、何でもひとりで行けるといふのではなく、他人の助けをうまく借りながら、やろうと思うことをなしていくことだと思ふのです。





そう考えたら、私の気持ちはスーッと楽になりました。

## 再び夢をかなえる機械へ

柱時計が夜中の一時をうちました。入力したデータを保存した私は、大きなあくびをひとつしました。明日これをプリンターで打ち出し、この墨字原稿をボランティアの人に送るのです。そうすれば、打ち間違いや漢字使いなどの校正箇所がカセットテープに録音され、間もなく私の元に帰ってきます。また私には辞典をひいてくれる人や本を読んでくれるボランティアの人たちが大勢います。こうして私の趣味の読書と創作は、多くの人に支えられながら成り立っているのです。

父も母も寝てしまった家の中はしんと静まり、目の前のパソコンのモニター音だけが、自己主張するかのように、低くうなりをあげています。渴きは完全にいやされないものの、今のところこの機械は、墨字を書くという私たちの夢をかなえてくれた大切な機械なのです。

「ご苦労さま」そうつぶやくと、私はパソコンのスイッチをそっと切りました。

教室から

## 二年一組のいっくん

小学校教師 伊藤 邦博

★子どもたちは2年生に無事進級。入学以来私の手を焼かせてきたエイリアンのように見えた子どもたちも社会のルールやマナーを身につけながらだいたいぶ落ち着いてきました。

昨日は運動会でした。2年生に進級した子どもたちは、成長した自分の姿を、一生懸命重ねてきた練習の成果で、家の人にみてもらおうと懸命の演技を繰り広げました。

団体競技は「飛んで、わたって、転がして」というもの。2人組みでスタートし、初めに縄跳び両足とび10回、続いてバランスよく平均台をわたり、そのあとは2人で大玉を転がして、スタート地点に戻り次の人にリレーするというものでした。縄跳びは1年生の3学期から練習に励んで来たものですし、平均台の上をバランスよくわたるのも、身体の使い方を知らずに育ってきた現代の子どもたちに平衡感覚を身につかせなければと体育の学習時に頻繁にとり入れてきた運動でした。大玉転がしは二人で協力することを学んで

ほしいと考えました。そしてこの競技にあたり、ルールを説明しました。ルールを守ることに、これも教育現場では重要な指導内容です。縄跳びはきちんと自分で数え10回跳ぶこと、平均台から落ちたら落ちたところでもう一度台の上に昇り歩きなすこと、大玉はきちんと古タイヤに載せてくること、これがこの競技のルールです。

子どもたちは一生懸命ルールに則り、競技を続けていました。ある子どもが平均台から落ちました。その子はもちろんルールに従いました。それを見ていた母親たちの一団が「そんな律儀にやることないのに。負けちゃうじゃない。」

学校もなかなか大変です。

★2年生になっても私は詩の指導を続けています。2年生の1学期の指導のねらいは

- 1 さまざまな対象に近づいて、その様子をよく見て、それから それからと思いを伸ばして綴る。
- 2 喩える言葉をさがし表現すること（比喩の導入）。

今は1のほうを重点的に指導中ですが、素敵な作品が続々と生まれています。

### 息するアイロン／長島 成美

きのうママがアイロンしてたの。  
ママがアイロンを、下におくと

アイロンが「ふーふー。」っていきしてたの。

またママがアイロンをかけて、また下においた。

そしたらまたアイロンがいきをした。

なるみはおもしろくなって

もっとアイロンを見てた。

もっともっとアイロンを見てたら、

アイロンがもっとおもしろいきをしたんだ。

どうゆうふうにいきをしたかってゆうと

「ふー ふーふー ふーふー」

って、おもしろいきをしたんだ。

ママがアイロンをかけおわってコンセントをぬいて

もとのばしょにアイロンをおいたら、

アイロンがためいきを

ついたらんだよ。

「ふー。」てね。

お母さんがアイロンがけをしているのを、傍ですつと見つめていた成美さん、そのうちにスチームアイロンから噴出する蒸気の音に興味を覚えしました。じつと聞いているとその時々で蒸気の噴出する音に違いがあることを見つけました。そのうちにそれが人間の息のように聞こえてきました。仕事を終えたアイロンは最後に一息「ふう」とため息をつきました。一仕事終えた時に私たちがそうするように、成美さんには聞こえませんでした。

感動して読みました。指導者として最もうれしい時の一瞬です。

★今年も引き続き担任している子どもたちが一年生のとき、子どもたちが洋服は糸を織り上げて作られていることを知らないことに気付きました。今の時代に生まれ育った子どもたちです。無理ありません。「きみたちも自分で布を織つてみたいと思いませんか。」と尋ねると「やってみよう。」と大歓声。

廃材を鋸で切り、釘を打ち簡単な織り機を作りました。鋸で木を切るのも、釘を打つのも初めての経験という子どもたちですから、時間がかかりましたが、全て子どもたちの手で作らせました。縦糸を緩みなくピンと張るのも、手先を入学前から昔の子供のように使

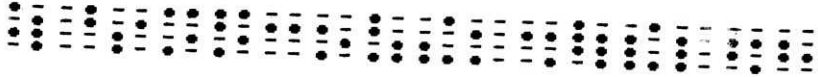
っていない子どもたちにはとても難しい作業でした。縦糸を張り終わるといよいよ織り始めです。お母さんたちが寄付してくださった毛糸を横棒に繰りつけ、縦糸に上、下、上、下と順に横糸をからませながら織り続けます。途中で違う色に取り替えて素敵な模様を織り上げていきました。織りあがった布は紐とボタンをつけて可愛い小さなポシェットに仕上げました。2ヶ月を要した学習でしたが子どもたちは意欲を持ち続けて完成にこぎつけました。出来あがったポシェットを肩にかけた時の子どもたちの表情は満足感にあふれていました。

今年の子どもの願いは、綿を育て、糸を紡ぎ、染色して、織物を作りたいということです。子どもたちの鉢には今2週間前にまいた綿の種から芽が出てきています。

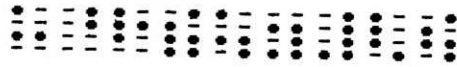
教室にはそろそろ校庭の2年生の花壇に移植する大豆が30センチほどに伸びています。大豆を収穫して味噌を作るか、豆腐を作るか、まだ決まっていませんが、子どもたちは毎日大豆の丈の長さを測定したり、本葉の枚数を数えたりしながら観察記録をつけています。いずれ種の知恵や葉の光合成についても2年生ですが学習させるつもりです。



うま かい なり  
午の貝田うた音なく成にけり



与謝蕪村



今回も蕪村ね。  
意味はどう？

ちようどお昼よ。  
この俳句、  
ぴったりね。  
いい天気だし。

気持ちいいね。  
五月晴れって  
言うんだね。



イラスト版



# 漢点字ってどんな字？ 13

志 お志 未お 未 志

志 志朗(しろろ)君  
 未 未来(みき)ちゃん  
 おねえさん

『うまのかい』ってなんだろう？

お昼を知らせるほらがいのことだっけ。

『午』はお昼のことで、

『貝』が法螺貝。

法螺貝ってどういうの？

山伏が吹いてるあれよ。

大きな巻貝に穴をあけて、そこ

を吹いて大きな音を出すのよ。

聞いたことあるよ。

そうね、お昼を知らせる音のこと

とね。今はあまりなくなっただけ

ど、ちよつと前まで、時刻を音

で知らせていたのね。

知ってるよ、お寺の鐘や会社の

サイレンなんかだよ。

蕪村のころには、法螺貝でも知

らせたんだね。

志 未お

その後は？  
『田うた』ってなに？

そうか、昔はお米を作るのが中心だったから、みんなが並んで田植えをしたんだね。その時に歌をうたいながら調子を合わせたんだ。そうでしょ？ だから、広い田圃に響くように法螺貝で知らせたんだ。

そうね、田植えは大変な作業だからみんなで助け合ってたのね。そして歌のリズムで苗を植えていったのよ。

その時  
お昼を  
知らせる  
貝の音、  
さあお昼  
だっという  
ところよね。



# 午

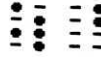
音は「ゴ」、訓は「うま」  
 “杵”の原字で上下に交差する  
 “きね”を表す象形文字



左斜め線に横線  
 その下にも横線  
 上の横線を貫か  
 ないで縦線

もとは杵だったんだ

## 漢点字



志 漢点字では

馬が 〰〰〰〰で

牛は 〰〰〰〰

“午”は、字の形が  
 “牛”にも似ている  
 ので、こういう  
 形になったんだ。

漢点字は象形文字の  
 意味を採っていないんだね。



以てます  
 はあ！

志

お

未

お

志未

お

4画の簡単な字だけど、ちよつとむずかしいのよ。この字、どういう意味？

お昼って意味、だから時間の単位かな？

“うま”とは関係ないの？

ラジオでもお昼の12時を“正午”って言うけど、そのことでしょ？

この字は『うま』だけど、その意味は

十二支の7番目のことね。

未来ちゃん、十二支ってなに？

動物が12匹いる

のよね。でも

なんだろう？

十二支は、  
 方角や時間  
 の単位と  
 理解すれば  
 いいのよ。  
 そこに

わかりやすく

動物を当てはめたのね。

時計の文字盤に動物を置くとね、ほら

“午”は（南）の方角でしょ。

ああそうか、わかった。

お日さまが真南に来るとお昼なんだ。でもこの時計、一日で一周なんだね。





# 貝

音は「バイ」、訓は「かい」  
子安貝を象った象形文字



縦線、右上角かぎ  
中に横線2本  
下に横線  
その下に左右の  
斜め線（ハの字）

## 漢点字



カイの形の象形文字ね。でも「目」の下に「ハ」と覚えてもいいんですけど、形はそうね。でも象形文字だということは忘れないでね。

貝を含む字って  
お金や財産、宝物を  
表す字に多いみたい。  
子安貝の貝殻って  
昔はお金に使われ  
ていたんでしょ？

漢点字では…  
1マス。  
へんやつくり  
に使われるんだ。

加貝

分貝



加えて  
めでたし  
分けて  
ビンボー

# 田

音は「デン」、訓は「た」



広く広がる田畑  
を表す象形文字

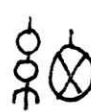
縦線、右上角かぎ、中に縦線  
横線、下に横線

## 漢点字



これ、中国では耕作地全体を  
を表す字だけど、日本では  
水田を表すんだ。

漢点字では…  
1マス  
部首に使われるんだね。  
部首になると、「胃・思・細」  
のように、この田とは違うも  
のも多いんだった。



# 音

音は「オン、イン」、訓は「おと」  
口に物を入れて声を出す形の  
会意文字

（成り立ち）

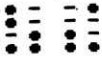
“音”は“言”の“口”の中に点  
“言”は、古くは“辛”の下に“口”

言 ← 音  
音 ← 音



現在の字形 “立”の下に“日”  
立 点、横線、左右下すぼまりの  
斜め線（逆ハの字）、横線  
日 縦線 右上角かき 中に横線  
下に横線

漢点字



お未  
“立つ日”がなんで音になるの？  
成り立ちをみると、もとは

“立”と“日”ではないのよ。

志



志

未 お

“言” “音”と並べて  
みるとなんか似てない？  
へえ、そういえば  
そうだ。

“言”は口を大きく  
広げて大きな声を出  
しているようだし、  
“音”はしかめっ面  
をして、言いたい  
ことも言えないって  
顔してるわ。  
想像力豊かだなあ。

“言”はもとは“辛”と“口”を合わ  
せた字。“辛”はするどい刃物の意味  
で、“言”は、はっきり区切りをつけ  
て話すことを表しているの。でも口の  
中に何か入れて話してみて。ウーとか  
いう“音”しか出ない、というわけね。

漢点字では、上の“立”と

下の“日”に分けて

したから、“言”とは似てないよ。



# 成

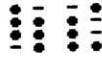
音は「セイ、シヨウ」  
訓は「なる、なす」  
“戈(ほこ)” または  
“戊(ほこ)” に  
音符“丁”の形声文字

篆文 契文



左斜め線①の始点から右に横線②、  
①の中ほど内側に小さい斜めかぎ  
横線②を貫く右はねの手かぎに、  
短い斜め線交差 右上に点

## 漢点字



お 未  
この字は、出来上がるとか、完成す  
るとかの意味で、“丁”(テイ・セイ)  
が音符になつてゐるのね。  
“ほこ”はここでは仕上げる道具よ。  
仕上げてしつかりしたものにするの  
が“成”なのよ。

うか

「いぬ」にご用心!

戊(ボ・つちのえ)は  
戊(ジュツ・いぬ)や  
成(ジュ・まもる)  
と形が似ているので  
お気をつけください。



お 志

よく使われる字だけど、漢点字では  
“ほこに丁”ではないのね。  
うん、ちよつと違うんだ。この字の  
漢点字符号

“せ”で、この字の音を表し、

“は、戊”だね。

そうね。戊はまさかりのような形を  
した、半円形の削刀(こがたな)よ。

今回の漢字は、  
象形文字や会意文字  
が多くて、ちよつと  
大変だったわね。



## 「羽化の会」ライブラリー作りについて

本会も本格的な活動を初めて4年目に入り、多くの皆様のご理解ご協力のもと、歩を進めております。

今年度より長期計画として、現在の活動に加え、漢点字訳書のライブラリー作りを始める事に致しました。

第一期のライブラリーとして予定している書籍をご紹介します。

時間のかかる作業ではありますが、今後も続けて行きたいと思っております。ご意見・ご要望をお寄せください。

## 【ライブラリー作品紹介】

### 1 児童文学

現在、多くの20代以上の人々が読み、ティーンエイジャーにはあまり読まれなくなっていました。

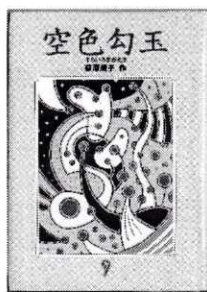
内容的には、子供はもちろん、20代以上の方々まで幅広く読める内容です。漢点字の勉強をしておられる方々にも楽しんで読んでいただけるものと思います。

### ① 萩原規子作 勾玉三部作より

『空色勾玉』『白鳥異伝』『薄紅天女』

以上 徳間書店刊

神々が地上を歩いていた古代の日本「七よめしほ豊葦原」、光と闇がせめぎあう戦乱の世を舞台に、「水の乙女」と「風の若子（わかご）」の冒険と成長、運命の恋を描き、圧倒的な人気を博したファンタジー。



### ② アーシユラ・K・ルルグウィン作 清水真砂子訳

ゲド戦記3部作より

『影との戦い』『こわれた腕環』

『さいはての島へ』

以上 岩波書店刊

アースシーという架空のファンタジー世界を舞台に魔法使いの素質をもって生まれてきたゲドという男の子が魔法学院に通い、一人前になっていく成長物語。

③ 岩波 世界児童文学集(全三〇巻) 岩波書店刊

- 1 『星の王子さま』 サン＝テグジュペリ作
  - 2 『くまのプーさん』 ミルン作
  - 3 『ドリトル先生航海記』 ロフティンク作
  - 4 『たのしい川べ』 グレーアム作
  - 5 『魔術師のおい』 C・S・ルイス作
  - 6 『ホビットの冒険』 トールキン作
  - 7 『風にのってきたマアリー・ポピンズ』 トラヴァース作
  - 8 『床下の小人たち』 ノートン作
  - 9 『風の又三郎(新編集)』 宮沢賢治作
  - 10 『ムギと王さま』 ファージョン作
  - 11 『グリム童話選(新編集)』 相良守峯訳
  - 12 『アンデルセン童話選(新編集)』 大畑末吉訳
- 全集として、岩波文庫より全5巻であります。  
全集として、岩波文庫より全7巻であります。

- 13 『白いりゆう黒いりゆう』 中国民話 君島久子訳
  - 14 『星のひとみ』 トペリウス作
  - 15 『わらしべ長者』 木下順二作
  - 16 『みどりの小鳥』 カルヴィーノ作
  - 17 『やぎと少年』 シンガー作
  - 18 『やかまし村の子どもたち』 リンドグレン作
  - 19 『魔女ジエニファとわたし』 カニグズバーグ作
  - 20 『飛ぶ教室』 ケストナー作
  - 21 『トンデモネズミ大活躍』 ギャリコ作
  - 22 『村は大きなパイづくり』 クレスウエル作
  - 23 『ジム・ボタンの機関車大旅行』 エンデ作
  - 24 『山賊のむすめローニャ』 リンドグレン作
  - 25 『トムは真夜中の庭で』 ピアス作
  - 26 『太陽の戦士』 サトクリフ作
  - 27 『シェパトン大佐の時計』 ターナー作
  - 28 『大草原の小さな町』 ワイルダー作
  - 29 『ツバメ号とアマゾン号』 ランサム作
  - 30 『あのころはフリードリヒがいた』 リヒター作
- テレビ化されたローラシリーズの一冊。

以上の世界文学集は、シリーズ作品の場合は、代表作が選書されております。ご希望の場合は、シリーズ全作を漢点字訳致します。

その他 次の2冊の書籍案内よりピックアップして頂く予定です。

赤木かん子著

『かんのミニミニ 子どもの本案内』

『かんのミニミニ ヤング・アダルト入門』

リブリオ出版刊

## 2 現代詩

今までの活動でも現代詩の漢点字訳を行って参りました。詩は「仮名点字」では、判らないこと、味わえないことが沢山あります。今後も詩の漢点字訳を続けて行きたいと思っております。

ライブラリーとして、思潮社刊の現代詩文庫から漢点字訳を始めたいと考えました。現代詩文庫は現在、第Ⅰ期・第Ⅱ期・新選現代詩文庫と続刊されております。その中から、前年度に図書館に納入した『現代詩

の鑑賞101』に選ばれた詩人から漢点字訳することに致しました。その詩人は以下の通りです。

及川 均・石原 吉郎・黒田 三郎・吉岡 実・  
宗 左近・安東 次男・中桐 雅夫・安西 均・  
関根 弘・石垣 りん・鮎川 信夫・三好 豊一郎  
那珂 太郎・清岡 卓行・北村 太郎・田村 隆一  
吉本 隆明・吉野 弘・茨木 のり子・中村 稔・  
辻井 喬・長谷川 龍生・岸田 衿子・新川 和江  
川崎 洋・飯島 耕一・多田 智満子・渋谷 孝輔  
大岡 信・堀川 正美・白石 かずこ・安水 稔和  
入沢 康夫・谷川 俊太郎・岩田 宏・新藤 涼子  
吉原 幸子・財部 鳥子・中江 俊夫・安藤 元雄  
三木 卓・鈴木 志郎康・富岡 多恵子・  
天沢 退二郎・高橋 睦郎・清水 哲男・  
吉行 理恵・辻 征夫・岡田 隆彦・長田 弘・  
清水 昶・吉増 剛造・佐々木 幹郎・荒川 洋治  
伊藤 比呂美





## 点字の宛名について

前号の「点字から識字までの距離(一二)」で、点字による宛名書きを取り上げていただきました。編集部でもその実施状況を知りたいと思います、郵政省に電話でお尋ねしました。それによりますと、山内さまのご報告のとおり、

①点字による宛名書きのできる郵便物は、点字郵便物に限られる。開封が必要。

②郵便局の窓口から差し出す場合は、原則としてその場で局員が聞き取って墨字訳する。

③ポストに投函されたものは、本局で点字の一覧表を拾いながら局員が墨字訳する。

ということでした。これは、郵政省の通達によって実施されている制度で、全国の郵便局で受け付けられるということですが。

漢点字による宛名書きについてお尋ねしたところ、要望があれば検討をするが、即刻の実現は難しいということでした。また、現在そのような郵便物がポストに投函された場合、発送人も受取人も不明郵便の扱いになるようです。ただし、省では把握されていないが、

地方の郵便局では、独自の判断で受け入れているところもあるかもしれないとも言われました。ご存じの方は、編集部までお知らせ下さい。

今回以上のようなお尋ねを致しましたが、残念ながら即答ではありませんでした。そのことを思いますと、各局に十分知れ渡った制度とは言えないように思います。この制度の是非はともかく、私たちが公共のサービスを利用するに当たって、その制度の存在が利用者ばかりでなく、そのサービスを担う職員にもよく知られていないことがあります。特に郵便制度は、その料金とともにしばしば変更されます。

点字の宛名書きの制度を普及させることを通して、漢点字による表記の認知を促すということも、漢点字普及の面から、考えてもよい方法かもしれません。



水仙や才を恃（たの）みて三十路（みそぢ）過ぐ  
 草間時彦（くさま ときひこ）

作者は大正九年、東京生れ。水原秋桜子、石田波郷に師事した文人的俳人。ここに紹介した句は（つぎの句も）いずれも時彦が人生の途上にあつての感慨を詠んだもの。

前の句は、あの頃おれも若かったな、なんであんなに肩肘張って頑張ったのかな、しかし30才を越えた今振り返って考えてみるとあの頃はあの頃でこれがおれの使命と信じてベストを尽くしたのだ。（朔）

情事なき中年百日草咲くよ  
 草間時彦

才を恃んだ時期が過ぎると、地道で堅実な中年がやってくる。めったに欠勤もしなければ浮いたうわさも立たぬ。まるで見ばえもしない花をあきもせず咲かす百日草のように。これがおおかたの中年。実はこのような人たちこそがこの世の中を支えているのだ。（朔）

編集後記

本号も多くの方々よりご寄稿頂きました。

この場をお借りして御礼申し上げます。

点字の漢字については、漢点字・6点漢字共に今年は色々な動きがありそうです。羽化の会も多くの事を勉強しながら、歩を進めて行きたいと思っております。

引き続き6点漢字・漢点字に対する御意見・経験談等、掲載していきたいと思っております。是非、ご寄稿下さい。原稿は、千字〜二千字程度、テキストデータのフロッピーディスク或いは、手書き原稿（漢点字も可）をお送り下さい。テープ版・ディスク版をご購読の方は、返送時に同封して下さい。原稿締切は毎奇数月の月末です。

【原稿送付先】 〒232・0014

横浜市南区吉野町4・19・2・606

横浜漢点字羽化の会 宗助 宛

次回の発行は八月十五日です。

宗助 悦子

\*本誌（活字版・テープ版・ディスク版）の無断転載はかたくお断り致します。